

## 特集

# 21世紀 卓越した情報研究拠点 プログラムの目指す研究 （前編）

## 編集にあたって

土井 美和子 （株）東芝 研究開発センター  
miwako.doi@toshiba.co.jp

**学会**は、公平かつ中立的に、産と学の双方の連携の仲介役を務めるのに最適な立場にあります。その学会誌において、産学相互の情報共有を推進すれば、産学連携を円滑に進め、日本の情報処理技術を振興していけるのではないかと、本特集「21世紀卓越した情報研究拠点プログラムの目指す研究」を企画いたしました。本企画は、産学相互の情報共有の一環として、まず大学側で行われているさまざまな施策のうち、21世紀COE (Center of Excellence) を紹介するものです。

21世紀COEプログラムは、「大学の構造改革の方針」（平成13年6月）に基づき設定された「研究拠点形成費補助金」をもとに、平成14年度から文部科学省にて新規事業として開始されました。世界トップレベルの大学と競争できる教育および研究活動拠点を目指しています。従来の施策が研究活動を重視しているのに対し、教育活動（特に博士後期課程など若手研究者の育成）に重点のある点が特徴となっています。

公募が開始される前には、30拠点大学しか選ばれないなどいろいろ取り沙汰されました。最終的には、平成14年度には、生命科学、化学・材料科学、情報・電気・



平成 14 年度	生命科学	28
	化学・材料科学	21
	情報・電気・電子	20
	人文科学	20
	学際・複合・新領域	24
平成 15 年度	医学系	35
	数学・物理学・地球科学	24
	機械・土木・建築・その他工学	23
	社会科学	26
	学際・複合・新領域	25
平成 16 年度	革新的な学術分野	28
総計		274

表-1 21世紀COEプログラム採択拠点

電子，人文科学，学際・複合・新領域の5分野，平成15年度には，医学系，数学・物理学・地球科学，機械・土木・建築・その他工学，社会科学，学際・複合・新領域の5分野，平成16年度には，革新的な学術分野の1分野の，合わせて11分野，274件が採択されています。

21世紀COEプログラム研究拠点の一覧は，  
[http://www.jsps.go.jp/j-21coe/03\\_saitaku/index.html](http://www.jsps.go.jp/j-21coe/03_saitaku/index.html)  
 に掲載されています。このうち，情報関係18件（14年度採択情報・電気・電子と学際・複合・新領域の11件，15年度採択学際・複合・新領域の2件，16年度採択5件）を取り上げ，4月号と5月号の2回に分け，その研究成果と創造的人材育成状況を解説いただき，産業界への情報発信を行います。

第1部の4月号では，平成14年度採択の情報・電機・電子分野20件のうち，情報系の以下の10拠点について，紹介をお願いしました。平成14年度採択拠点については，平成16年度に中間評価も行われています。紹介をお願いしなかった他の10拠点の中にも，情報系の研究は含まれているものもありますが，今回は，情報系に重きがあるものを取り上げさせていただきました。

#### H14年度 情報・電気・電子の情報関係 (10拠点)

##### ユビキタス知識環境と知識メディア

北海道大学/田中 譲教授  
 情報科学技術戦略コア 東京大学/武市 正人教授  
 情報通信技術に基づく未来社会基盤創生

横浜国立大学/河野 隆二教授

社会情報基盤のための音声・映像の知的統合

名古屋大学/末永 康仁教授

知識社会基盤構築のための情報学拠点形成

京都大学/田中克己教授

ネットワーク共生環境を築く情報技術の創出

大阪大学/西尾 章治郎教授

ユビキタス統合メディアコンピューティング

奈良先端科学技術大学院大学/千原 國宏教授

システム情報科学での社会基盤システム形成

九州大学大学院システム情報科学研究所/前田 三男教授

電子社会の信頼性向上と情報セキュリティ

中央大学/辻井 重男教授

プロダクティブICTアカデミアプログラム

早稲田大学/村岡 洋一教授

Webページの採択拠点一覧リストでは，拠点ごとには，上記に示した拠点リーダーのお名前しか掲載されていないので，実際に参加されている先生を知ることができません。そこで，解説記事では，狭い紙面の中，ご無理をお願いして，参加いただいている先生のお名前も入った拠点体制表の掲載をお願いしました。

本特集が契機となり，企業在籍会員に興味を持っていただき，新しい産学連携が生まれればと願う次第です。最後に，本特集の編集にあたり，卒論，修論，博論の審査や入試対応など，1年で一番忙しい時期に，時間をさいて解説記事を執筆いただいた執筆者の先生方と，ご指導いただいた和田編集長，事務局後路氏，綿谷氏に深く感謝いたします。

(平成17年3月11日)